日本赤十字社 大阪赤十字病院
Japanese Red Cross Society
人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

びりーぶ

BELIEVE

2018 秋号 VOL.66

特集 緩和ケア病棟開設のお知らせ

川田優也「揺らめく情熱のタンゴ」 ・制作年/2008 ・素材/色紙、紙
〈エイブルアート・カンパニー所属 URL:http://www.ableartcom.jp〉

シリーズ 情熱の白衣 医師の素顔66 第一消化器内科部長 兼 消化器内科部統括部長 丸澤 宏之

- 食だより「鮭と大根の塩レモンバター焼き」／お薬ミニ知識「OTC医薬品（一般用医薬品）の使用上の注意」
- 「医療安全課」からのお知らせ／〝かかりつけ医〟をもちましょう
- 「大阪府北部地震」と「平成30年7月豪雨」－当院の活動－

大阪赤十字病院の理念

わたしたちは
人道・博愛の赤十字精神に基づき
すべての人の尊厳をまもり
心のかよう高度の医療をめざします

患者さんの権利

1. 一人の人間として、人権をまもられる権利があります
2. 良質かつ適切な医療を、公平に受ける権利があります
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利があります
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利があります
5. プライバシーがまもられ、個人情報が保護される権利があります
6. 自己の診療録等の医療情報の開示を求める権利があります
7. 他施設の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります

日本医療機能評価機構 認定第 JC885 号
人間ドック・健診施設機能評価

 ■発行／大阪市天王寺区筆ケ崎町5−30 平成30年10月発行 第66号

病棟 開設のお知らせ

緩和ケア科部長 端 裕之

HIROYUKI HASHI 6月4日滋賀県生まれ。北海道大学医学部卒業。京都大学、岸和田市、大和高田市の病院にて研修後、京都大学医学部博士課程。平成12年～16年アメリカで研究留学を経験。帰国後、当院の消化器外科医としてがんサポートチームに属し緩和ケア専従医に。平成27年、緩和ケア科部長に就任。

緩和ケア病棟スタッフ

当院はがん治療のひとつとして、がん終末期のみならず、がん治療中も、治療の妨げになるさまざまな苦痛症状を和らげる「緩和治療」に力を入れています。外来通院中も入院中も、切れ目のない緩和ケアサービスを提供する体制をとっていますが、加えて本年9月より、当院12階A病棟に20床の緩和ケア病棟を開設しました。当院の取り組みや病室などを紹介します。

緩和ケア病棟とは

『緩和ケア病棟』というと、皆さまはどのようなイメージをお持ちでしょうか？ 抗がん治療を行わない病棟ですので、どこか消極的なイメージを持たれている方も多いと思います。「抗がん治療をやめたら病気が急激に悪くなるのでは？」と多くの方が心配されますが、最近では抗がん治療を適切な時期に中止しないとかえって命を縮めてしまうと考えられ始めています。加えて、がん治療の早い時期から専門家による苦痛症状の緩和を受けることで、命の長さも有意に伸びることがいくつもの研究で示されています。理由はまだはっきりしてはいませんが、つらさやストレスをいろいろな方法で少しでも和らげておくことで、病気に対する体の働きを高める効果があるのかもしれません。私たちは「緩和治療は、抗がん治療が終了となった後も行うことができる延命を目指した治療」でもあると考えています。

当院の緩和ケア病棟

私たちは、緩和ケア病棟を自宅での生活（在宅療養）を支えるための病棟と考えています。がんでの療養中は、病気の場所や進み具合により痛みやその他の症状が強くなり、通院中の担当科での治療では十分に症状が改善しないことがあります。そんなとき、緩和ケア病棟に入院していただき、お薬の調整などを行いながら、自宅で過ごす上での問題を一緒に考えます。日常生活に支障をきたす症状に対しての専門的な緩和治療や適切な介護サービス・訪問医療サービスの導入・調整を行い、引き続き自宅での療養を続けていただけるようにします。在宅療養をご担当いただく医療者（医師・看護師・薬剤師など）と当院の緩和ケア科の医師とで連絡を取り合い、自宅療養中でも必要な場合には緩和ケア病棟に入院していただけますので、不測の事態に不安を抱えておられる方も安心して自宅で過ごしていただけます。患者さんご本人やご家族が自宅療養に疲労を感じられた場合も、1週間程度の一時的な入院加療（レスパイト入院）で対応します。

当院の緩和ケア病棟の取り組み

当院の緩和ケア病棟の理念は、次のとおりです。

> 患者さん一人ひとりの
> 思いを尊重し、
> 患者さんが「その人らしく」
> 穏やかな毎日を過ごして
> いただけるように支援します。

そのため入院後、まず初めに患者さんとご家族に「これからどんなことを大切にしながら、どこで、どんな風に過ごしていきたいか」をお伺いします。例えば「病状や見通しについてはなるべく具体的に知りたい（あまり聞きたくない）」「最期は自宅で迎えたい（病院で迎えたい）」など、患者さんの気持ちや意向を丁寧にお伺いしていきます。そしてご自身の病状と今後の見込み、および利用できる医療資源と照らし合わせて、今後目指していく生活と治療のプランをしっかり話し合います。こうして患者さんとご家族、医療者で「生活プラン」を作成し、緩和病棟での入院の予定を一緒に考えます。

一方で、急性期病院の緩和ケア病棟という特性上、一般的なホスピス（終末期専門病床）のように長期間入院すること

緩和ケア

はできません。苦痛症状が改善・安定しても病院での療養を続けたいという場合は、患者さんとご家族の希望をお伺いしながら、体調や希望に応じた医療機関を紹介します。

病棟に入院していただいている時間は「苦痛を和らげるための治療の時間」であると同時に、とても貴重な「やりたいことを実現するための生活の時間」でもあります。「行きたいところへ行く」「会いたい人に会う」「伝えたいことを伝える」など、「やりたいこと」「できること」を一緒に見つけ、それを叶える方法を一緒に考えていきたいと思っています。

総合病院ならではのさまざまな職種のスタッフ（医師、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床心理士、栄養士、医療ソーシャルワーカー）が積極的に患者さんやご家族にかかわらせていただく体制をつくり、「大阪赤十字病院の緩和ケア病棟で過ごせてよかった」と感じていただけるような病棟にしていきたいと思っています。

いかがですか？ 緩和ケア病棟のイメージが変わりましたか？ 緩和ケアは患者さん一人ひとりに「その人らしく」過ごしていただくための積極的な治療です。皆さまの希望をどうかお聞かせください。「もう少し詳しく知りたい」と思われた方は、パンフレットもございますので、主治医や看護師にお声かけください。

パンフレット

病室のご案内

談話室

談話室から見える風景

個室Aタイプ ※有料です。

【設備】トイレ・洗面台・シャワー・ミニキッチン・床頭台・TV（DVD内臓）・冷凍冷蔵庫・応接セット

個室Bタイプ ※有料です。

【設備】トイレ・洗面台・ダイニングテーブル・床頭台・TV・DVDプレイヤー・冷凍冷蔵庫・クローゼット・畳コーナー

無料個室

【設備】トイレ・洗面台・床頭台（TV）・冷凍冷蔵庫・ソファー

※TVの使用は有料となります。

シリーズ 情熱の白衣 医師の素顔 66 HIROYUKI MARUSAWA

休日の楽しみは、日本酒をお手製の肴で飲むこと

遺伝子レベルの研究を診療に活かす時代に。患者さんごとに治療の選択ができる医療を確立していきたい。

第一消化器内科部長 兼 消化器内科部統括部長 丸澤 宏之

がんと向き合い、戦ってきた、診療・研究の経験を活かしたい。

医師の職分には、「患者さんを診る」「専門分野を研究する」「医学生に教える」、この3つの領域があるという。診療を行い、研究生活を過ごし、医学生に教えてきた丸澤医師が、今回選んだのは診療の現場。「学生に教えることは好きですし、研究もあるレベルまではたどり着いた。では、次に何をするかと考えて、何かひとつに力を注げる仕事がしたい、医師になったのだから、臨床に重きを置いたライフスタイルに変えようかと考えていた頃に、当院からお話をいただきました。」

何かひとつに力を注げる仕事がしたい。そのきっかけには、ずっと「がん」という病気に向き合い、研究を続けてきた、丸澤医師が歩いてきた歴史がある。「肺がんを除き、日本人の命を最も奪っている病気は、消化器内科のがんです。これまではひとつのがんに対して同じ治療しかできず、効果も十人十色に違いました。そこで、なぜがん細胞ができるのか、なぜ同じ治療でも結果が違うのか、病気を治す答えを見つけたいと、遺伝子レベルの研究を続けてきました。これからは、患者さん一人ひとりの遺伝子そのものを丁寧に調べて、診て、治療をする時代。研究の成果を活かし、患者さんごとに治療の選択ができるオーダーメイド的な医療の基盤をつくっていきたいですね。」

医師としてのやりがいは、患者さんを治すこと。

丸澤医師が職業を選ぶときに考えたのは、「無人島に来たとき、究極の状況で一番必要なのは、病気の知識を持つ人」、そして消化器内科を選択する際は、「たくさんの病気の人を診る科で働きたい」と思ったそう。「医師になりたての頃は、昨日できなかったことが今日できるようになって、つい前まで知らなかったことを今日初めて知ることができたと、一日一日、自分がたくましくなっていく実感がありました。その後、研究に入り、患者さんを診ない生活が続くと、やる気が下がっていきましたね。やはり患者さんの顔を見ると気持ちも新たになるし、発見もある。〝患者さんの病気を治したい〟というところに医師としてのモチベーションがあるんですね。治療後、数年たってから『あのときは本当にありがとうございました』と患者さんから言われたときは、〝がんばってよかった〟と感じる瞬間です。」

苦労しながら進めてきた胃がん・肝がん解明の研究の成果が認められ、報道された当時の新聞（平成19年）。

患者数が多く、忙しい消化器内科では、後進の育成も目標のひとつ。どうすればこの病気が治るのか？なぜこの病気の研究をするのか？丸澤医師が若手医師に伝えたいのは、病気の本質を学ぶことのおもしろさや、病気を治していくやりがいだという。丸澤医師の下で、患者さんに必要とされ、たくさんの患者さんを治療していく医師が、続々と育っていくのが楽しみである。

6月17日大阪府生まれ。京都大学医学部卒業後、市立岸和田市民病院の消化器内科医を経て、京都大学大学院にて医学博士を修得。米国カリフォルニア大学に3年間の研究留学へ。帰国後、約15年間京都大学医学部にて准教授・医師として活躍。平成30年4月より当院に赴任。第一消化器内科部長、消化器内科部統括部長を兼任している。

看護師レポート 66 MIHO OKAMOTO

8月8日愛媛県生まれ。大阪赤十字看護専門学校を卒業し、当院に就職。手術室に8年、外科病棟で2年の看護勤務を経て、平成20年に救急科（救命救急センター）看護係長に就任。平成25年、新生児・未熟児科（NICU・GCU）の看護係長に就任し、現在に至る。

●看護係長 岡本 美穂

私が看護師の仕事を選んだのは、幼なじみの母親が看護師だったことがきっかけです。遊んでいる私たちにナースキャップを作ってくれ、かぶせてくれたことがうれしくて、ずっと心に残っていました。幼なじみは地元愛媛で看護師に、私は都会に出てみたいと大阪で学び、当院に就職しました。

就職の際に内科を希望しましたが、配属先は手術室でした。看護学校で受けた実習とは違い、診療科ごとで手術の行い方が違うため、仕事を覚えることに必死でした。その後、外科、救命救急センターの看護を担当し、現在は新生児・未熟児科の係長として働いています。赤ちゃんは、成人の患者さんのように自分の言葉で伝えられないので、「今、赤ちゃんはどういう状態なのか」、赤ちゃんの様子を読み取り、判断していくことが求められます。そういった看護ができるのも、これまでの手術室や救急の、重傷で話せない患者さんの看護を経験したことが、役立っていると思います。

これまでの経験を活かした看護で、赤ちゃんとともに、家族を支えたい。

休日は、子どもと遊ぶ時間になっています。まだ小学1年生で、普段は仕事で長く一緒に過ごせない分、子どもと出かけて過ごすようにしています。

新生児・未熟児科で、私たちが赤ちゃんの看護とともに支えていくのは、お母さんやご家族です。私も母親なので、お子さんを思う母親の気持ちはわかります。退院できるくらいに元気になって、家族と一緒に過ごせるようになるとうれしいですね。当科には、経験豊富な看護師たちが集まっています。係長として、看護師の経験がより活かせる看護のマネジメントを通して、赤ちゃんと家族を支えていきたいですね。

地元で仲良しだった幼なじみと、七五三を迎えた当時の一枚。（左:岡本さん）

食だより

栄養管理課　管理栄養士　福井 侑子

鮭と大根の塩レモンバター焼き

今号では、秋が旬の鮭について紹介します。

鮭に含まれる赤の色素成分のアスタキサンチンは、ビタミンCと比べて、6、000倍もの抗酸化作用があり、シミの原因になる活性酵素を除去します。他にも発がん予防や糖尿病の予防、眼精疲労の解消などにも効果的とされています。

また鮭には、DHAと、EPAという脂肪酸が豊富です。DHAは記憶力や学習能力を高める効果、EPAは血液をサラサラにする効果があります。

今回紹介するメニューは、鮭とレモンを使ったメニューです。鮭に含まれるアスタキサンチンは、レモンを添えて食べることで抗酸化効果が増すといわれています。

〈材料〉(2人分)

鮭		2切れ(200g)
A	塩	少々
	こしょう	少々
大根		50g
長ねぎ		20g
オリーブ油		小さじ1
ミニトマト		8個
水		大さじ4
しめじ		½パック
B	塩	少々
	粗びき黒こしょう	少々
	バター	7g
レモン		適量

作り方

1. 鮭は一口大に切り、Aをふる。
2. 大根は皮をむき、厚さ2cmのいちょう切りにする。
3. 長ねぎは斜め切りにする。
4. フライパンでオリーブ油を中火で熱し、鮭、大根を入れて焼き付ける。
5. ④がこんがりとしたら裏返し、長ねぎとへたをとったミニトマトを散らし、水を回し入れる。
6. しめじは石づきを取り、小房に分けて入れる。蓋をして中火で3分ほど蒸す。
7. Bを加えて混ぜ、器に盛りレモンを添える。

お薬ミニ知識

薬剤部 薬剤師　有江 宏樹

OTC医薬品(一般用医薬品)の使用上の注意

今回は、「OTC医薬品」についてお話したいと思います。「OTC医薬品(別名：一般用医薬品)」とは、主に医師が処方する「医療用医薬品」とは異なり、薬局やドラッグストアなどで販売されている医薬品のことを指します。

近年、高齢化社会や生活習慣病の増加などに伴い、健康管理、病気の予防への関心が高まっています。厚生労働省では健康寿命を延ばすため、セルフメディケーションを推進しています。セルフメディケーションとは、『自分自身の健康に責任を持ち、軽度な体の不調は自分で手当てすること』と定義されています。

セルフメディケーションのメリットとしては、ご自身で健康管理を行うことにより病気やお薬に関する基本的な知識が身につき、医療機関を受診する際の費用や時間を削減することができます。また、保険医療費の抑制による国の負担の軽減、医師不足などが問題となっている医療現場の負担の軽減にもつながります。

セルフメディケーションを実施する上での注意点

セルフメディケーションを実施する上で、OTC医薬品が重要になってきます。

現在、OTC医薬品は数千種類あります。解熱鎮痛薬や感冒薬、うがい薬、胃薬、ビタミン剤などさまざまな種類のお薬があり、多岐にわたる疾病の治療や予防に使用されています。これらの薬剤は、医師が処方する医療用医薬品と比較して容易に入手できることから安全なお薬だと思われる方も多いと思いますが、時に重大な副作用を起こす危険性があります。次の場合は特に注意してください。

■医師から処方された常用薬を服用している場合

医師より処方されている常用薬がある場合、お薬の飲み合わせによってお薬の効果が増強したり減弱したりして、副作用が現れやすくなることがあります。お店の薬剤師にお薬手帳を見せて、飲み合わせに問題がないかなど確認してもらうことをおすすめします。

■腎臓・肝臓が機能低下している場合

一般に、お薬の代謝・排泄にかかわる肝臓や腎臓の機能が低下している高齢者の方は注意が必要です。

腎臓・肝臓の機能低下により、お薬の排泄が滞り体内に蓄積し副作用が現れやすくなる危険性があります。使用に際し、注意が必要なお薬も一部ありますので、必ず薬剤師に確認してから使用してください。

OTC医薬品を購入する際は、薬局やドラッグストアなどにいる薬剤師に相談し、正しく安全なお薬の使用を心がけてください。

みんなで予防、転倒・転落

2025年に向けて高齢化率が高まるなかで、当院にかかっておられる患者さんもご高齢の方が多く、杖を突いたりご家族に付き添われたりして来院されています。一般に元気な方でも加齢に伴い、次のような特徴が現れてきます。

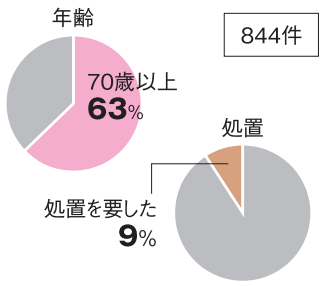
- 姿勢が前かがみになり、歩くときに足を上げる力が弱ってくる
- 筋力や注意力が低下し、身体のバランスがうまく取れなくなる

このような特徴をご本人はもとより、周囲の方々も理解していただき、転倒・転落事故を未然に防ぐことが重要です。当院では、入院前サポートセンターにポスター(左図)を掲示したり、更衣室に手すりを設置したりして、院内での転倒・転落予防に努めています。

当院の昨年度の転倒・転落事例は844件、そのうち70歳以上の患者さんの割合は6割以上を占めています。転倒・転落は、骨折や脳出血など大きな事故につながりかねませんが、幸いにもほとんどが軽い打撲程度ですんでいます。「トイレに行こうとして尻もちをついた」「物を取ろうとしてベッドから滑り落ちた」など、そのほとんどが入院患者さんに起こっています。これは生活環境が大きく変わることや、治療や手術による身体症状の変化、精神的ストレスなどの影響が原因として考えられます。入院前にはできていたことができなくなったり、自分で思っているほど動けなくなったりして、思わず転ぶことがあります。入院中は履きなれた靴をご使用いただき、ベッド周りの整理整頓をお願いします。入院によるストレスに対しては、ご家族やご友人の面会などが、患者さんの精神的安定につながり、転倒・転落を未然に防ぐことになります。患者さんやご家族の皆さまにも医療チームの一員、あるいはパートナーとしてご理解のうえ、ご協力をよろしくお願いします。

▲転倒・転落防止予防のポスター

院内での転倒・転落事例(H29年度)



登録医紹介

〝かかりつけ医〟をもちましょう

病院と診療所がその機能や役割を分担しながら、患者さんに適切な医療を提供することが求められています。自分のことをよく知っていて、ちょっとした病気やケガの診察や相談ができる〝かかりつけ医〟をもちましょう。

かかりつけ医
日ごろの健康管理
専門的な治療が必要なら当院へ紹介

紹介 →
← 逆紹介

大阪赤十字病院
高度医療・専門医療
症状が安定したら再び「かかりつけ医」へ

医療法人 上本町ヒルズ歯科クリニック

- 院　長／永井　美也子
- 診療科／歯科
- 住　所／大阪市天王寺区筆ケ崎町5−52−201
- 電　話／06−6774−4182
- 訪問診療／有
- 診療時間

外　来	月	火	水	木	金	土
午前(9:00〜13:00)	○	○	／	○	○	○
午後(14:30〜19:00)	○	○	／	○	○	△

※水・日・祝日は休診
※△(土曜午後)は14:30〜17:30

永井院長

特長　大阪赤十字病院西側に隣接しているクリニックモール内にある歯科医院です。予防歯科・小児歯科・マタニティ歯科に力を入れており、困りごとがなくても健康増進のために気軽に来ていただきたいと考えています。院長はじめ歯科衛生士・保育士・管理栄養士など、スタッフすべてが女性です。小さなお子さまがいらっしゃる方が来院しやすいよう、火・木・金曜日午前中は、保育士による託児サービスも行っています。

地域の皆さまへ　虫歯や歯周病といったお口の病気は、生活習慣病のひとつです。正しい知識を知り、普段気をつけていただくだけで予防できることがあります。HP(www.uehonmachi-hills.jp)・Facebook・Instagramなどで情報発信をしています。親知らずの難抜歯や顎関節症などの疾患は、連携している大阪赤十字病院口腔外科へ紹介します。当院は厚労省に認可されたかかりつけ歯科医強化型歯科診療所です。かかりつけ歯科医として、今後も医院づくりをしてまいります。

医療法人 岩本診療所

- 院　長／岩本　伸一
- 診療科／内科・外科
- 住　所／大阪市東成区東小橋1−2−11
- 電　話／06−6971−2522
- 往　診／有
- 訪問診療／有
- 診療時間

外　来	月	火	水	木	金	土
午前(9:00〜13:00)	○	○	○	○	○	○
午後(17:00〜20:00)	○	○	／	○	○	／

※日・祝日は休診

岩本院長(前列中央)とスタッフ

特長　医療の高度化、専門分化に伴い『かかりつけ医の役割とは何か』を常に問いながら、地域医療に取り組んでいます。訪問看護ステーションを併設し、スムーズで無理のない在宅医療提供体制を確立していることに加え、糖尿病専門医外来、循環器専門医外来、各種健診、学校医、産業医活動も日常業務として行っています。「地域医療学」を研究、深化させ「人生に寄り添う医療」を実践していくことが目標です。

地域の皆さまへ　かかりつけ医には、「近くにいる(アクセスの良さ)」「何でも相談できる(気安さ)」「何でも診てくれる(よく知っている)」「話が分かりやすい(丁寧さ)」「必要があれば最適な専門医を紹介してくれる(病院と連携が強い)」などが求められています。大阪赤十字病院との連携を通じ、地域密着型の医療を提供できればと考えています。

大阪府庁災害対策本部にて情報収集を実施（上左）／当院の災害用緊急車両（上中央）／外国の方の被災者も多く見受けられた・茨木市（上右）／
高槻赤十字病院へ簡易トイレの設置支援（下左）／院長より激励を受ける救護班（下中央）／限られた資器材を使用して応急処置を行う・倉敷市真備町岡田小学校（下右）

「大阪府北部地震」と「平成30年7月豪雨」－当院の活動－

この度の災害でお亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、
被害に遭われた方々の一日も早い回復、復旧を願っています。

国際医療救援部 緊急救援活動報告

大阪府北部地震 派遣期間：平成30年6月18日～22日

6月18日7時58分に発災した大阪府北部地震では、被害の大きかった茨木市より、大阪府災害対策本部を通じて医療救護班の派遣要請があり、発災当日から3日間医療救護班を派遣し、現地の保健師さんたちとともに避難所の巡回を行いました。この地震では、幸い周囲の医療機関の被害が少なかったため、各避難所では健康状態をチェックしたり、避難所の衛生状況を確認したりし、診療が必要な避難者の方は近隣の医療施設に紹介しました。

また医療チームとは別に、大阪府庁の災害対策本部に職員2名を発災当日から5日間派遣し、行政やDMAT（厚労省による災害医療チーム）、医師会、保健所などと調整業務を行いました。

当院の支援は5日間で終了しましたが、日赤としてはその後、現地でのこころのケアや、ボランティアセンターの立ち上げ、運営にかかわって支援を続けました。

一方、当院の地震被害は阪神淡路大震災以来23年ぶりのことで、エレベーターが止まったり、一部の機材に不具合が出たりして、患者さんにはご迷惑をおかけしました。当院周辺は震度4程度と推定され、大きな被害はありませんでしたが、今後の災害対応に多くの教訓を得ました。

平成30年7月豪雨 派遣期間：平成30年7月12日～24日

大阪北部地震の医療支援がようやく落ち着いたと思っていた矢先に、今度は西日本を中心とした豪雨災害が発生しました。地震に続いて7月12日から医療救護班を派遣しました。倉敷市の災害対策本部の指示により、岡山県で最も被害の大きかった真備町で一番大きな避難所となっていた岡田小学校にて、医療活動を行いました。7月24日まで活動、計117名の被災者の方々を診療しています。疾患として多かったのは、軽度の外傷や持病の高血圧などの慢性疾患でした。

熊本地震以来、2年ぶりの医療救護班の派遣となりました。熊本地震の際に展開したホスピタルdERU（災害対応野外病院施設）のような大きな資機材は持って行かず、身軽な巡回診療という形での活動でしたが、派遣された職員はそれぞれできる限りの活動を行い、無事に帰院しました。

倉敷市保健所にて情報収集を行う

災害時の救護活動は、私たちの大きな使命であります。

緊急事態に即座に対応するため、大阪赤十字病院には医療救護班があります。
また、日赤で唯一のホスピタルdERU（災害対応野外病院施設）を保有しています。
今後も当院は、地域住民の皆さまを守るために被災時でも最大限通常診療を継続すべく種々の備えや訓練をし、
また他府県災害にも速やかに支援ができるよう、機材整備や人材育成を続けていきます。

当院の国内外の活動については国際医療救援部公式フェイスブックに
日々アップしていますのでご覧ください。
➡ 右記のQRコードを読み取るか、『大阪日赤国際』で検索してください。

Topics Box ニュース & イベント

Event 平成30年度 院内文化祭を開催します

当院では毎年、院内で文化祭を開催しています。文化祭では、当院の職員や小児科の入院児童さん、大手前整肢学園通園・入園者の方々が持ち寄った絵画や写真、手芸などの作品を展示しています。また、来場者の皆さまには気に入った作品へ投票していただいています。

本年は下記の日程で開催しますので、ぜひご来場ください。

- 期間／平成30年11月19日(月)～11月22日(木)
- 場所／本館4階　会議室4
- 時間／9:00～17:00(最終日は13:00まで)

昨年度の作品

Event セプテンバーコンサートを開催しました

歌唱グループ『虹』の皆さま

手話付きで歌う瀬戸つよし様

9月9日(日)、恒例のセプテンバーコンサートを開催しました。当日は雨が降るなか多くの方にご来場いただきました。

今回は二部構成で、第一部では歌唱グループ『虹』の皆さまに、「見上げてごらん夜の星を」や「少年時代」など多くの方に馴染み深い歌を素敵なハーモニーとピアノの伴奏で披露していただきました。

第二部では歌手として活動されている瀬戸つよし様に歌を披露していただき、手話付きの歌では、会場が一体となって手話をしながら歌いました。

クリスマスコンサートは12月15日(土)に開催予定です。

ぜひご来場ください。詳細は院内にポスターを掲示します。
※開催日は予定ですので変更になる場合があります。

編集後記

だんだんと涼しくなってきて、過ごしやすい季節になりました。季節の変わり目は体調も崩しやすいので、皆さま気をつけてくださいね。私は先日、家族でお弁当を持ってピクニックへ行きました。外で食べるご飯は格別で、高い空とさわやかな風から秋の訪れを感じることができました。食欲の秋、スポーツの秋、芸術の秋…、皆さまはどんな秋を過ごされますか。　(Y.N)

Seminar 第9回 糖尿病オープン教室を開催します

毎年恒例となりました「糖尿病オープン教室」を本年も開催します。

「糖尿病」について考え、学ぶ機会として、有益な情報が盛りだくさんの内容でお届けします。ご自由に参加いただけますので、ぜひお越しください。

- 日時／平成30年11月7日(水)　13:30～15:30
- 会場／大阪赤十字病院　本館1階　正面玄関ロビー
- 参加費／無料
- 受付／受講される方は、直接会場へお越しください。
  ※動きやすい服装でお越しください。
- プログラム／ **講　演** ・梅田陽子(トータルフィット株式会社　代表取締役、京都大学医学部附属病院リハビリテーション部　健康運動指導士)、当院管理栄養士、薬剤師による講演。
  ※講演の詳しい内容については、決まり次第、院内掲示および当院ホームページにてお知らせします。
  http://www.osaka-med.jrc.or.jp/

昨年の講演の様子

健康生活相談コーナー ・医師、糖尿病療養指導士による健康生活相談コーナーを設け、皆さまの質問や悩みにお答えします。

昨年の健康生活相談コーナーの様子

- お問い合わせ／大阪赤十字病院　2階⑧番窓口
  受付時間:平日 8:30～17:00
  担当:医療社会事業課　TEL:06−6774−5151(直通)

人事異動情報 (平成30年6月22日～9月30日付)

採用
〈6月22日付〉●岡田 明大(脳神経外科部・非常勤嘱託医師)
〈7月 1日付〉●坂口 正純(外科部・医師)
〈7月13日付〉●河野 大(脳神経外科部・非常勤嘱託医師)
〈8月 1日付〉●齋藤 林太郎(リウマチ・膠原病内科部・常勤嘱託医師)
〈8月18日付〉●酒巻 太郎(救急科部・非常勤嘱託医師)
〈9月 1日付〉●八木 俊純(精神神経科部・医師)

退職
〈6月30日付〉●岡田 俊裕(外科部・医師) ●久次米 佑樹(眼科部・医師)
〈7月31日付〉●内藤 遼太(リウマチ・膠原病内科部・常勤嘱託医師)
〈9月30日付〉●岩見 州一郎(産婦人科・副部長)
●中村 彩乃(産婦人科・専攻医)
●植木 健太郎(形成外科部・医師)
●柴田 翔(血液内科部・専攻医)
●陸野 尚仁(整形外科部・専攻医)

病院のご案内

- **受付時間(月～金)** 〈診療開始は午前8:45からです〉
  初診／月曜日～金曜日　8:30～11:30　再診／月曜日～金曜日　8:00～11:45
- **休診日**　土・日・祝・5月1日(本社創立記念日)・12月29日～1月3日
- **診察券**　診察券は全科共通で使用いたしますので、ご来院時には必ずお持ちください。
- **ご面会** 〈病状によってこの限りではありませんが、必ず病棟の看護師にご相談ください〉
  平日／14:00～19:00　休診日／10:00～12:00、14:00～19:00
  小児病棟(平日・休診日とも)／14:00～19:00
- **保険証等**　保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。
  また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

当院は敷地内全面禁煙です

当院は、敷地内全面禁煙を実施しています。
ご理解とご協力をお願いします。

大阪赤十字病院
大阪市天王寺区筆ケ崎町5−30　平成30年10月発行
■お問い合わせ
TEL:06−6774−5111(代表)
大阪赤十字病院 http://www.osaka-med.jrc.or.jp/
赤十字全般 http://www.jrc.or.jp/

PRINTED WITH SOY INK
Waterless Printing. Naturally.